

8月1日で川西市は還暦を迎えます

イベントなどが続々 盛り上がりはこれから

8月1日に、市制施行60周年を迎えます。それを記念し、12月まで各地でイベントや講演会などを開催。今回は8月に行われる催しを紹介します。皆さんもぜひお越しください。

市アーティストオーディション決勝

7月12・13日に第2次審査が開催されました。決勝に進出する全15組が、いよいよ本選で総合優勝を懸け、みづなかホールで熱いバトルを繰り広げます。総勢213組の応募者の中から厳正な音源審査・第2次審査を勝ち抜いた実力のあるアーティストばかりです。



す。当日会場へ。

とき 8月30日(土)午後2時
半開演(午後2時開演) 予定
▽ところ 川みづなかホール
問合せ 市アーティストオーディション運営事務局 ☎06(4964)5797へ

人権を考える 市民のつどい

8月23日(土)にみづなかホールで、午後2時15分開演(午後1時45分開演)。東谷中



商工会まぢめぐり スタンプラリー

校コーラス部による合唱と午後3時から歌手の米良美一さんの講演「生きながら生まれ変わる」を。定員は先着430人。詳しくは人権推進課 ☎(74)1150へ。

市制施行60周年を記念して8月1日(金)～31日(日)、「商工会まぢめぐりスタンプラリー」を開催します。ガイドブックを片手に市商工会の事業所などを巡ることで、さまざまな特別サービスの提供が受けられます。

お得意満載のオリジナル飲食メニューや、法律相談、工場や事業所の見学など、商工会という特色を生かした異色サービス満載の記念企画です。みんなで市内の特色ある事業所のサービスを体験して、川西の魅力を見直ししてみませんか。

また、各事業所から配布されるスタンプシール(地域ごとに図柄が異なります)を集めて応募すると、抽選で豪華賞品が当たるイベントもあります。詳しくは市商工会 ☎(759)8222へ。

りんどう賞

今年度の受賞者は9人2団体

市では毎年、市制記念日の8月1日に、誇りあるふるさとづくりのため、各分野で活躍している個人や団体に市民賞「りんどう賞」を贈っています。今年度は文化の振興発展に貢献した1人と1団体、社会福祉の向上に貢献した1団体、地域の振興発展と住民福祉の向上に貢献した3人、スポーツの振興発展に貢献した5人が栄えある賞を受賞されました。受賞者の皆さんは次の通りです。(順不同)

文化の振興発展に貢献



市茶道協会
会長 橋本 佳代さん

市茶道協会として公民館での茶道教室やイベントでの茶会開催など、市の茶道文化向上に大きく貢献されました。



織田 カヨ子さん
(見野2)

市いけばな協会に属し、華道の発展・普及に寄与。華道を通して地域の文化の振興に大きく貢献されました。

地域の振興発展と住民福祉の向上に貢献



加門 文男さん
(美山台3)



大槻 隆志さん
(久代4)

いずれも長年にわたり自治会やコミュニティ推進協議会の役員として、地域におけるリーダーシップを発揮。地域で連携を図りながら住民間の絆を深め、自治意識の育成および充実に努めるなど、地域の振興発展と住民福祉の向上に大きく貢献されました。



安藤 美津さん
(加茂4)



大槻 隆志さん
(久代4)



川西銭太鼓幸の会
代表 秦 幸子さん

川西銭太鼓幸の会として老人ホームなどで慰問公演を実施。社会福祉の向上に大きく貢献されました。

スポーツの振興発展に貢献



谷川 敬一さん
(笹部1)

ミニバスケットボール教室の指導に携わり、青少年の健全育成および技術向上に大きく貢献されました。



野崎 健一さん
(美山台3)

市立中学の陸上部顧問として生徒を指導。市陸上競技協会では理事長として同協会の発展に大きく貢献されました。



松井 修己さん
(猪名川町)

少年野球チームの指導に携わり、青少年の健全育成および技術向上に尽力。スポーツの推進に大きく貢献されました。



長崎 則明さん
(新田3)

少年野球チームの指導に尽力。また、市スポーツ推進委員として市のスポーツ推進に大きく貢献されました。



今北 道彦さん
(加茂2)

市拳法協会の活動に尽力。また、市体育協会会長として市のスポーツ推進に大きく貢献されました。

市

南部の久代や加茂の畑で、赤く熟した特産のいちじくが、甘い香りを放つ季節がやってきました。

本市は、今から60年前の夏、昭和29年8月1日に、川西町、多田村、東谷村の1町2村が合併して誕生しました。そのとき私は、今は休校となっている黒川小学校の2年生で、現在、黒川公民館として使用している校舎と妙見ケープルの間を祝賀行進したことが思い出されます。

初代川西市長の小笠原新三郎氏は、今は一庫ダムの湖底に沈んでいる国崎地区で私の実家の隣にお住まいでした。小笠原市長は、旧3町村から引き継いだ赤字の克服に取り組み、本市の礎を築かれました。

今月の

あんばい

川西の魅力を発信し、郷土愛を育む

住宅都市としての魅力があります。これらの大切な資源に付加価値を加え、次代へとつないでいきたいと考えています。

本市は、市制施行60周年を契機に「あんばい ええまち かわにし」をキャッチコピーとして、シティブロモーションを展開しています。広報かわにし、このコラムの名称も変更しました。

魅力を広く発信し、市民の皆さん一人ひとりが実感できるように、わがまち川西への愛着もさらに深まることでしょうか。

大塩民生

